**グローカル・ラーニングの実施**

文責：鈴木　精

**（１）グローカル・ラーニングについて**

学校設定科目「グローカル・ラーニング」（1単位）に加え、本校独自の「特設時間」をグローカル・ラーニング実施の時間と設定し、それぞれグローカルα・βとして実施した。

グローカルαは1年から3年まで合同縦割りで展開し、グローカルβは学年ごとにそれぞれ１年はグローカル基礎（Project Based Learning）、2年はグローカル演習（Personal Project Learning）、3年はグローカル発展（Project Advanced Learning）を行う。

グローカルαはグローバルな社会課題について解決へ向けた提言を行う探究学習であり、グローカルβはローカルな社会課題をテーマとした学校プロジェクトや課題研究に取り組む探究学習である。グローバルな視点での探究学習（グローカルα）とローカルな視点での探究学習（グローカルβ）を同時並行的に学習することで、3年間を通して、国際的視点と地域的視点の間に同時双方向的な作用が発生し、2つの視点の間を行き来しながら探究的な学びが螺旋構造的に高次に深められていく効果を追究してカリキュラム開発に取り組んでいる。

**（２）グローカルα**

開発教育をベースとして、課題解決型学習に取り組んでいくこのグローカル・ラーニングは国際人に不可欠な資質・能力を育成する本校の教育活動の根幹をなすプログラムである。SGHアソシエイト時から東北公益文科大学の先生方からご指導をいただきながらシラバスを作成してきたが、毎年ＰＤＣＡをしっかりと回し、生徒の実情も勘案し、学習内容を体系化し学習計画を構築している。

昨年度の単元として以下の5つを行った。

1. 地球市民とSDGｓ
2. 貧困と格差
3. 国連弁当
4. 難民問題
5. 食糧問題

**（３）グローカルα　今年度の活動**

今年度はwithコロナ時代の新しい教育の可能性を探り、新しいカリキュラムの開発につなげることを目標に、オンラインでのリモート授業を中心とした本校運営指導委員である森田明彦先生による気候変動をテーマとした探究学習に取り組んだ。このプロジェクトは、森田先生が取り組んでいる「健康な環境に対する子どもの権利を促進するグローバルキャンペーン」への生徒の主体的な参画を通じて、（１）ローカルおよびグローバルな環境問題について学習し、（２）海外の生徒との意見交換等を通じて英語によるコミュニケーション能力を高め、（３）自分の提言を英語で作成・発信することを通じてグローバルなリーダーシップの力を身に付けることを目指すものである。具体的にはオンラインでのリモート授業という形態を活かし、可能な範囲で本校生が受ける授業に卒業生をはじめ、一般の方にもオープンにし、海外からも参加していただくことで学びに多様性を持ち込んだ。年間を通して環境問題に取り組み、環境と人権の関係を学ぶワークショップへの取り組みから環境問題について段階的に学び、アメリカ外交問題評議委員会が作成する教材によって、米国の取るべき政策について思考し、その経験を模擬国連によって高次の学びへと発展し、さらにその知見を米沢市への政策提言としてまとめるカリキュラムが出来上がった。

グローカルα　年間学習活動

|  |  |
| --- | --- |
| 導入 | 地球市民とSDGｓ  私たちの生活とSDGｓランキング、地球市民とは  100人村WS |
| 貧困・格差 | 貿易ゲーム  アフリカの学校  カカオ農園の子どもたち  日本の子どもたち |
| 健康な環境に対する子どもの権利プログラム | |
| ガイダンス | ・趣旨説明  ・環境問題概要 |
| 学習１ | ・環境問題に関するワークショップ（校内）   1. 環境と人権（違いの違い） |
| 夏季集中講義 | ・リモートキャンパス（オンラインセミナー）2回  ・公開講座として外部との連携 |
| 学習２ | ・環境問題に関するワークショップ（校内）   1. プラスティックごみ 2. パーム油   ・環境問題に関する調べ学習及び考察発表（オンライン・オフライン）  （外部講師・森田先生聴講・助言）  ・リコージャパンSDGｓ環境学習会  プラスティックごみ問題とイノベーション |
| 学習３ | ・Model Diplomacy（森田先生によるオンライン講義）  Model Diplomacyはアメリカのシンクタンクである外交問題評議会が作成する教材であり、アメリカの高校生や大学生が環境問題を学ぶ際に使用されている教材である。これを用いて環境問題についてアメリカ大統領補佐官という立場で米大統領に気候変動についての政策提言を行うという学習を行う（英語） |
| 学習４ | ・地球温暖化国際交渉の概要  ・模擬国連（17か国、１NGO）  環境問題についての模擬国連に取り組み具体的で実践的な政策を考案する  新庄東高校との合同模擬国連として実施 |
| 学習５ | ・米沢市出前講座（カーボンゼロシティ宣言について）  ・政策提言の作成 |

当初計画していた2月開催の国連子ども委員会への政策提言（英語）までは行うことができなかった。

**（３）グローカルβ　実施報告**

グローカルβでは、1年次でPBLを行っている。実際には「食と健康」「多文化共生」「子ども食堂」の3つを学校プロジェクトとして設定している。2年次ではPPLとして、1年次でのグループによる探究学習をベースに、個人での課題研究に取り組み、3年次では2年次の課題研究を英語の論文にまとめるPALを行っている。今年度は新型コロナウィルスの影響により、「子ども食堂」プロジェクトはNPO法人ゆあら代表の竹部氏との協議の結果、中止することとなった。

1年PBL

【「食と健康」プロジェクト】

高畠町商工観光課、上和田有機米生産組合、NPO法人和楽茶の間、米沢栄養大学などと協働で、高畠町の有機農業の価値について探究する学校プロジェクト。

高畠町でのフィールドワーク、インタビュー調査などを行いながら学習を行った。

【「多文化共生」プロジェクト】

米沢市国際交流協会、山形大学と協働で、在住外国人との共生社会を構築する学校プロジェクト。

外国人留学生や国際交流員との座談会やワークショップなどを行いながら学習を行った。

（詳細は別資料）

2年PPL

1年次ではグループでプロジェクト学習に取り組んだが、2年次では、個人が1年次での活動を通して生じた課題や問題意識を掘り下げることでテーマを設定し、国際交流協会、米沢栄養大学、高畠町役場、上和田有機米生産組合などと連携しながら調査、インタビュー等を行いつつ、探究学習に取り組んだ。

中間発表を動画にし、運営指導委員の先生方に配信することで、コロナ禍でも指導を受けられるよう配慮した。

一方で、ハワイ研修でのフィールドワークによって、グローバルな視点を持ち、かつ、相対的に日本、地域を捉えながら探究を深める予定であったが、コロナ禍により、研修が中止となってしまった。

2名が文部科学省主催・第１回全国高校生グローカル探究発表会に参加し、また、3名がマイプロジェクトアワードに参加するなど、意欲的な姿勢も見えた。

3年PAL

3年次では前期の学習として、2年次での探究学習の論文を英語にまとめた。残念ながら発信する場がなかったのだが、一部の生徒は英語にまとめるだけではなく、自分の課題研究を継続、発展させ、大学入試へとつなげた。